

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

令和3年度 技術情報第13号(普通期水稻のいもち病)について (送付)

8月から発生が増加し、一部地域では発生ほ場率が高くなっています。今後も発生拡大が懸念されるので、適切な防除が行われるようお願いします。なお、本情報は病害虫防除所ホームページ(www.jppn.ne.jp/kagoshima)にも掲載しています。



令和3年度 技術情報第13号

1 対象病害虫 いもち病(穂いもち)

2 対象作物 普通期水稻

3 発生状況及び情報の根拠

- (1) 7月15日～21日に行った巡回調査での発生ほ場率が4%(平成8%)とやや少なかったが、8月2日～5日の調査では33%(平成28%)と平成並みとなり、南薩地域で発生が多かった(図1, 表1)。
- (2) 九州南部地方の向こう1か月の気象予報(8月5日鹿児島地方気象台発表)によると、平均気温、降水量および日照時間はほぼ平成並みと予想されており、今後の発生拡大が懸念される。

4 防除上注意すべき事項

- (1) 上位葉への発生が認められる場合は、粉剤または液剤で早急に防除を行う。
- (2) 常発地や葉色の濃いほ場では、窒素質肥料の追肥を控える。
- (3) 粉剤または液剤による穂いもち防除は、穂ばらみ期と穂ぞろい期に実施する。
- (4) 粒剤による穂いもち防除を行ったほ場でも、出穂後不順な天候が続く場合は、穂ぞろい期に粉剤または液剤で補充防除を行う。
- (5) QoI剤(アミスターなどを含むストロビルリン系殺菌剤)耐性イネいもち病菌の発生が確認されているので、本田散布の際の本剤使用は年1回以下とする。

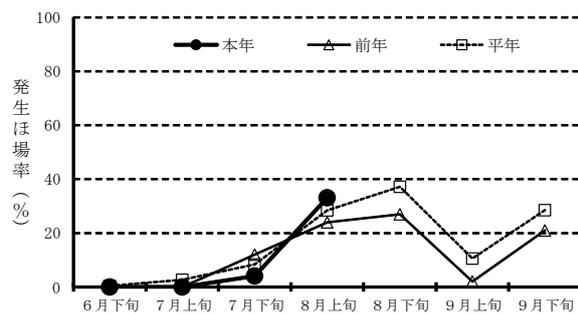


図1 葉いもちの発生ほ場率(普通期水稻)

表1 葉いもちの発生状況

地域	調査ほ場数	発生ほ場率 (%)			
		7月中下旬調査		8月上旬調査	
		本年	平成	本年	平成
南薩	10	10	9	50	29
北薩平坦	24	4	7	33	29
北薩山間	10	5	9	27	25
大隅	6	0	7	33	32
県全体	50	4	8	33	28

注) 本年7月中下旬調査は7月15日～21日、8月上旬調査は8月2～5日に実施。平成は、2011～2020年までの平均値。

調査地点は下記のとおりで、1地点2ほ場調査。

南薩 : 南九州市知覧永里・川辺町古殿・川辺町勝目、いちき串木野市大里、日置市伊集院町大田

北薩平坦 : 鹿児島市東佐多町、蒲生町楠田、始良市三拾町、霧島市隼人町住吉・国分上小川、薩摩川内市宮崎・高江・入来浦之名、阿久根市鶴川内、出水市野田町屋地・高尾野町東干拓・六月田

北薩山間 : さつま町宮之城平川・宮之城時吉・鶴田大角・中津川、薩摩川内市祁答院町上手

大隅 : 曾於市大隅町笠木・末吉町高松、鹿屋市野里